

1. 科目名（単位数）	図画工作Ⅱ（小）（2 単位）		3. 科目番号	SJMP2141 EDEL2304
2. 授業担当教員	井戸川 敦			
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・他科目との関係	図画工作Ⅰの単位を修得した後に履修することが望ましい。			
7. 講義概要	図画工作Ⅰにおいて習得した基礎的な技能や知識をさらに深め、子どもの造形活動の事例を例証・傍証として取り上げ、表現活動を展開する上で必要とされるより実践的な力を身につけていくことを目的とする。 実技や講義を主体として、具体的な素材体験や題材研究を重ね、指導者として造形教育の実践の場に通ずる幅と深みを有した力を養っていく。発展的な制作活動のなかで造形の面白さを実感し、自己の表現を追求するとともに、他者の表現に共感できる感性を養い、子どもの創造性豊かな造形活動を支えるために必要な素養を身につける。			
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 子どもたちの生き生きとした表現に寄り添うことのできる感性と、柔軟な観察眼を養う。 3. 発達段階における造形の特質を理解し、興味を引き出す題材設定や援助の在り方について学びを深める。 4. 素材体験や題材研究の経験を重ね、造形教育の指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 造形活動を行う場の在り方について考察を深め、安全性に配慮された適切な環境を構築する力を養う。			
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	1. 毎時の授業において製作する作品を提出課題とする。 2. 製作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 3. 鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。			
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】日本造形教育研究会編集『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』開隆堂出版 【参考書】槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 また授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。 【教材】 製作道具・材料についてはオリエンテーション時や事前の授業で指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。			
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 児童の表現に寄り添った造形活動の在り方について考えを深め、実践的な力がついたか。 2. 発達段階における造形表現の特色や、造形素材や題材化に関する知識が身につけられたか。 3. 児童の豊かな造形活動を支える基礎的造形力、技能が身につけられたか。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の 20% 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 30% 3. 制作や鑑賞活動の成果（ポートフォリオ等） 総合点の 30% 4. 課題（作品発表、レポート等） 総合点の 20%			
12. 受講生へのメッセージ	現代の、情報化が進展した社会環境において子どもの実体験不足が叫ばれています。幼少期における多様な素材体験や造形体験が子どもの豊かな人間的成長を促します。 この授業では、様々な造形体験を通して、造形に関する用具・道具の基礎的知識・技能の習得をめざすとともに、子どもの感性や創造性を受け止められるよう、教育者自身の感性と創造性を育みます。また、教員採用試験も念頭におきながら授業を進めます。 【注意事項】 1. 造形活動で用いられる様々な材料・用具（絵の具・クレヨン・画用紙・粘土等）は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 絵の具などを使用するため、汚れてもよい服装で出席することが望ましい。			
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等（メールなどで事前にご連絡ください）			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の発想・構想について		事前学習	教科書を一通り確認しておく。 図画工作や美術の授業を振り返り、印象深かった出来事について考える。またそれを踏まえ、自身が教育者になった際、子どもたちが豊かに、安心して製作できる環境設定を考える。
			事後学習	自身のこれまでの製作活動を振り返り、考えていたこと、感じていたことをまとめる。
第2回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて （講義＋演習）		事前学習	教科書 pp. 30-31 を読む。 これまでの描画経験を振り返り、描画の基本について考える。基本的な道具の使用法を復習し、今後表現するための基盤とする。
			事後学習	授業で学んだ内容を振り返り、各自で準備したモチーフを描いてみる。
第3回	◇ モダンテクニックによる表現 復習		事前学習	絵の具を用いた製作活動の経験を振り返り、

	「デカルコマニー・糸引き絵・スパッタリング・ドリッピング」 (講義＋演習)		印象深かった作品を書き出す。 作品製作に向けて、自分らしい色彩や表現について考え、構想をまとめる。
		事後学習	デカルコマニー・糸引き絵・スパッタリング・ドリッピングによる製作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。また上記の技法を振り返り記録する。
第4回	◇ モダンテクニックによる表現 「クレヨンスクラッチ・シャボン写し」 (講義＋演習)	事前学習	作品製作に向けて、抽象的な形態や様子に着目し自由に構想を練る。またクレヨンを用いた製作活動の経験を振り返る。
		事後学習	クレヨンスクラッチ・シャボン写しによる製作活動を振り返り、素材の材質や特徴について考える。また上記の技法を振り返り記録する。
第5回	◇ ポップアップカードによる表現 I 「山々カード・二本足カード」 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 50-53 を読む。 ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。
		事後学習	山々カード・二本足カードの製作活動を振り返り記録する。
第6回	◇ ポップアップカードによる表現 II 「ボックスカード」 (講義＋演習)	事前学習	ポップアップカードについて調べ、作品の構想を練りながら、製作に使用できそうなイメージを収集する。また実際の教育現場での使用アイデアの構想を練る。
		事後学習	ポップアップカードについて復習する。様々なポップアップカードのアイデアを書き出し、同様の技法が用いられた絵本について調べる。またボックスカードの製作活動を振り返り記録する。
第7回	◇ 工作表現 I 「廃材を使った造形表現」 題材の設定・製作の準備・構想と製作 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 54-57 を読む。 造形表現に用いられる素材の種類を挙げ、それぞれの素材に対するイメージをまとめる。 立体作品の製作に向けて、各自の題材に関する素材を収集する。
		事後学習	実際に製作する立体作品についての製作方法やデザイン案をまとめる。
第8回	◇ 工作表現 II 「廃材を使った造形表現」 素材についての研究 (演習)	事前学習	空き容器など、身近にある素材に目を向けて、造形材料の可能性について考える。身近な廃材を活用した作品製作に向けて、各自の題材に関する資料を収集する。
		事後学習	廃材を活用した製作活動を振り返る。他の学生が使用していた素材にも着目し、内容をまとめる。また今回の製作活動を振り返り記録する。
第9回	◇ 造形活動に関わる素材・道具・表現についての研究 I 色・形・材質（質感）について (講義＋演習)	事前学習	様々な造形活動について調べる。それぞれの造形活動について、必要となる素材を各自のノートにまとめる。
		事後学習	これまでの製作活動を振り返り、自分の作品に関して色や形、材質（質感）といった造形要素について考える。作品を各自スケッチブックなどにまとめる。
第10回	◇ 造形活動に関わる素材・道具・表現についての研究 II 様々な造形活動の研究と実践 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 104-129 に目を通す。 これまでの製作活動を振り返り、自分の作品の特徴について考える。
		事後学習	自身の造形の特徴を、他の学生の作品との比較から、その長所や短所を考える。
第11回	◇ 自分の表現の研究 I 様々な素材を利用した造形活動の研究 (講義＋演習)	事前学習	前回まで考えた自分の作品の特徴を生かし、今回のカリキュラムのアイデアスケッチを行う。また、自分の表現に適した技法や素材について考える。
		事後学習	これまでの製作活動を振り返り、自己評価をまとめる。特に自身の造形表現の長所についてのみ、各自のノートにまとめる。
第12回	◇ 自分の表現の研究 II	事前学習	教科書 pp. 130-153 に目を通す。

	作品の相互鑑賞 (講義+演習)		製作活動について、自分らしく仕上げていくイメージを持つ。作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、特に印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、考えたこと、感じたことを各自のノートにまとめる。
第13回	◇ オンライン美術館 (ICT 教育について) 「Google Arts & Culture を使用した造形表現の研究」 (講義)	事前学習	教科書 180-189 に目を通す。 中学校、高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。
		事後学習	Google Arts & Culture を使用し、興味のある作家の作品について、考えたこと感じたことをまとめる。
第14回	◇ 素材研究 I 「素材研究を通した任意の衣装の製作と発表」 (講義+演習)	事前学習	製作、発表に向けて、スケッチブックやノートにアイデアをまとめ、グループ内での意見交換に積極的に参加する。任意の衣装製作に関する構想を練り、各自資料を収集する。
		事後学習	第 15 回の発表について構想をまとめる。また鑑賞者の視点において、これまでの様々な発表において特に印象に残ったものを取り上げ、考えたこと、感じたことをノートにまとめる。また今回学習した技法を使用し作品を製作する。
第15回	◇ 素材研究 II 「素材研究を通した任意の衣装の製作と発表」 (演習+発表)	事前学習	作品のプレゼンテーションに向けてコンセプトをまとめる。自身の作品を簡潔に伝えるためのキャッチフレーズを考える。
		事後学習	相互に鑑賞を行ってみて、特に印象に残った作品やプレゼンテーションについて良かった点をまとめながら、自分の作品の良い特徴を再度確認し認識する。図画工作Ⅱの製作活動を振り返り、自分の作品やノートをまとめる。